

会員様同士の活発な情報交換のために、月に1回お届けしております。

+++++

+++ CONTENTS +++

- 【1】青銀会理事によるリレーエッセイ:
(理事・事務局長)小林敏男氏
- 【2】第8回 大会詳細プログラム
- 【3】助成金・イベント・セミナー等のお知らせ
- 【4】編集後記

+++++

事務局長の小林です。

常日頃、会員各位には大変お世話になっております。

さて、メルマガ執筆の順番がまたまた回ってきたようなので、拙文ながら、以下したためさせていただきます。

「100年に1度の経済危機」と言われて数ヶ月が経ちますが、世界各国の追加経済(金融・財政)対策に対する期待感からか、指標面では、そろそろ底打ち感が出始めてきています。もちろん、米国の一部金融機関の不安説も根強く残っていますが、金融機関の破綻スキームについては、既にリーマンショック以降、FRBも経験していますので、小生個人的としては、それほど市場を揺るがす大きな材料にはならない、と思っています。

むしろ、懸念しているのは、GM・クライスラー、とりわけGM問題です。一部報道機関によりますと、債権放棄および債権の株式化(いわゆるDES)のスキームを用い、GMの有利子負債を軽減した上で、一部のブランドを廃止し、リストラによって、会社を再建する、というものです。当該スキームが実行されると、GMの労働組合および政府のシェアは、約90%にまで達し、このスキーム以外の救済策はなく、後はChapter 11へ、すなわち破産処理へ、ということでした。

分からなくはない処理ですが、GMIについては、2,3年程度、長くて数年程度延命したに過ぎないと思っています。その理由は、短中期において、組合員たちのモラル問題、中長期において、コーポレートガバナンス(企業統治)問題、といった「双子の悪魔」を抱えることになるからです。

少々話を戻しますが、何故、クライスラー以上にGMが苦しいか、と言えば、労働組合の規模が巨大で、そこでのペンションファンド(年金基金)運用についても、損失が出た場合は、損失の一部を会社が補填しなければならない構図になっているからです。

GMをはじめ米国の自動車業界は、労働組合が強く、日本人から見れば、本当に「高待遇」の産業です。詳しい統計は今、手元にはありませんが、会社は、支払給与の1.8倍から2倍の労働コストを負担しています。支払給与以外は、社会保障および年金基金用の資金です。組合は、年金基金をそれ自体で運用していますが、一定利回り以下の場合、会社からの追い銭で、利回りが確保されます。それらが会社側においては負債として計上されます。

今回の労働組合の債権圧縮・株主化は、経営責任の一部を労働者にも共有してもらい、会社再生に向けて一致団結、というシナリオとも読めなくはないのですが、日本人ならいざ知らず、権利主張の国・アメリカにおいて、退職者の年金が保障されて、今働いている労働者の年金はおぼつかない、という何処かの国で訊いたような話がアメリカで展開された場合、間違いなく、[Your Job, My Job]の国でうすから、労働者は働かなくなります。

そして、労働組合が実質的な大株主になるわけですから、企業統治上、組合にとって有利な企業運営へと傾斜していきます。そうすると、どうなるか。新規雇用は極力抑えられ、研究開発投資も手控えられ、労働組合としての財産を守ろうとする、いわゆる「従業員支配型」の企業統治構造へと陥ります。この統治構造の失敗は、東欧企業において実証済みです。

にもかかわらず、今回、このスキームでGM問題を終結させようとしているのは、政治問題化させたくないのと、操業が著しく落ち込んでいる自動車部品産業の回復を急がせるためだ、と小生は見ています。

もともと、ひょっとするとこの2,3年の間に経済状況が好転する、という読みもあったのかもしれませんが。すなわち、米国1月の新規住宅着工数は、54万件、とマーケットコンセンサスを20%近く上回り、2月45万件、3月30万件台後半、4月の予想では、3月を上回りそうだし、という情報が出回っています。これに呼応して、また減産効果もあって、石油は、1バレル50US\$近辺で落ち着きを取り戻してきていますし、銅価格のしっかり、の様相です。

銅については、中国におけるIT投資が活発化し、銅線重要が堅調であることが直接的な要因ですが、中国市場を牽引役として、世界経済が回復基調に戻ってくれば、すぐさま、レアメタル系の価格が上昇しますので、それに伴う金融商品の価格が上がり、また、世界的なバブルを期待できるのかもしれませんが。そうなれば、GMの延命策も成功だった、と言えなくはないでしょう。

いずれにしても、在庫調整もそろそろ底が見え始めてきましたので、09年後半の経済回復に期待したいものです。

以上

▼△▼△

【2】第8回大会 詳細プログラム

▼△▼△

以下のように詳細が決まりましたので、会員の皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

【第8回 大会プログラム】

- 日時 平成21年6月1日(月) 13-30 ? 17:10
- 場所 阪大中之島センター 10階 佐治敬三ホール
- テーマ 大阪からの発信！
- 対象 会員、一般参加
- 参加費 無料（懇親会は、会員3,500円、一般5,000円）
- シンポジウム
- ・ごあいさつ 特定非営利活動法人青い银杏の会理事長 森下竜一 (13:40)
- ・基調講演「今こそイノベーション推進を！」
文部科学省研究振興局 ライフサイエンス課長 菱山 豊氏
大阪府商工労働部 理事 北野 義幸氏
(パネルディスカッション)
バイオサイトキャピタル株式会社 代表取締役社長 谷 正之氏
大阪大学医学系研究科 教授 森下 竜一氏
(ファシリテータ)
- (14:40)
- ・会員大学発ベンチャーの報告
アンジェス MG株式会社 取締役、
執行役員創薬研究本部長 玄番 岳踐氏
クリングルファーマ株式会社 代表取締役社長 岩谷 邦夫氏

< 休憩 >

(15:30)

- ・法人特別賛助会員からの報告
「昨年度、IPO状況モニタリング」
野村證券株式会社大阪支店

大阪企業金融三部 シニア・オフィサー 真貝 洋一氏
「知財信託について」
三菱UFJ信託銀行株式会社 資産金融第1部
商品開発グループ グループマネージャー 高元幸治郎氏

(16:10)

・ゲスト・スピーカ「大阪からの発信」

バイエル薬品株式会社 代表取締役会長 栄木 憲和氏
大幸薬品株式会社 代表取締役副社長 柴田 高氏

< 休憩 >

(17:30)

□ 第4回定時総会

< 移動・休憩 >

(18:00)

□ 懇親会 交流サロン

以上

▼△▼△

【3】助成金・イベント・セミナー等のお知らせ
(近畿経済産業局からのご案内を転載)

▼△▼△

【 公 募 情 報 】

1. (公募期間:5/11～5/20)

「おおさか地域創造ファンド地域支援事業」の公募について
【大阪商工会議所】

2. (公募期間:4/27～6/8)

平成21年度「新エネルギーベンチャー技術革新事業」の公募について
【NEDO技術開発機構】

3. (公募期間:5月上旬～6月下旬)

「イノベーション推進事業」(大学発)の公募について
【NEDO技術開発機構】

4. (公募期間:平成21年5月上旬～7月上旬)

「イノベーション推進事業」(実用化)に係る研究開発テーマの公募開始
について

【NEDO技術開発機構】

5. (公募期間:4月中旬～5/15)

イノベーション推進事業のうち「産業技術人材活用事業」の公募について
【NEDO技術開発機構】

6. (公募期間:4/1～5/15)

平成21年度「SBIR技術革新事業」の公募について
【NEDO技術開発機構】

7. (公募期間:CREST 3/17～5/19、さきがけ 3/17～5/12)

「戦略的創造研究推進事業」(CREST、さきがけ)の公募について
【独立行政法人科学技術振興機構】

イ ベ ン ト 情 報

8. (開催:6/11)

「国際シンポジウム:イノベーションにおける競争と協調
一次世代の特許制度を考える」開催のご案内
【京都大学、東京大学】

「産学官ビジネスフェア2009」開催のご案内
【日刊工業新聞社】

★ ★ TOPIX ★ ★

【内閣府、総務省、文部科学省、経済産業省
日本経済団体連合会、日本学術会議】

4/8 ページ

■詳細は以下URLからご案内ください。

<http://www.osaka.cci.or.jp/fund/index.html>

■お問い合わせ先:

大阪商工会議所 中小企業振興部 経営相談室

TEL: 06-6944-6471

※(ご参考)おおさか地域創造ファンド事業 <http://www.mydome.jp/aopf/>

2. (公募期間: 4/27~6/8)

平成21年度「新エネルギーベンチャー技術革新事業」の公募について

[https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/nedokouboplace.2008-03-](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/nedokouboplace.2008-03-12.8888243044/nedokouboplace.2008-06-19.7862559123/nedokouboplace.2009-04-02.1519615878/copy_of_nedokoubo.2009-04-16.3620168999/)

[12.8888243044/nedokouboplace.2008-06-19.7862559123/nedokouboplace.2009-04-](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/nedokouboplace.2008-03-12.8888243044/nedokouboplace.2008-06-19.7862559123/nedokouboplace.2009-04-02.1519615878/copy_of_nedokoubo.2009-04-16.3620168999/)

[02.1519615878/copy_of_nedokoubo.2009-04-16.3620168999/](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/nedokouboplace.2008-03-12.8888243044/nedokouboplace.2008-06-19.7862559123/nedokouboplace.2009-04-02.1519615878/copy_of_nedokoubo.2009-04-16.3620168999/)

【NEDO技術開発機構】

本事業では、ベンチャー企業等が保有している潜在的技術シーズを活用することで、継続的な新エネルギーの導入普及のための新たな技術オプションの発掘・顕在化を行い、次世代の社会を支える産業群を創出することを目的としています。

また、再生可能エネルギーおよびその関連技術に関する技術課題を提示し、それらの解決策となる技術について、多段階選抜方式による開発テーマの支援を行います。

■公募期間: 平成21年4月27日(月)~平成21年6月8日(月)17時 必着

■詳細は以下URLからご案内ください。

[https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/nedokouboplace.2008-03-](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/nedokouboplace.2008-03-12.8888243044/nedokouboplace.2008-06-19.7862559123/nedokouboplace.2009-04-02.1519615878/copy_of_nedokoubo.2009-04-16.3620168999/)

[12.8888243044/nedokouboplace.2008-06-19.7862559123/nedokouboplace.2009-04-](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/nedokouboplace.2008-03-12.8888243044/nedokouboplace.2008-06-19.7862559123/nedokouboplace.2009-04-02.1519615878/copy_of_nedokoubo.2009-04-16.3620168999/)

[02.1519615878/copy_of_nedokoubo.2009-04-16.3620168999/](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/nedokouboplace.2008-03-12.8888243044/nedokouboplace.2008-06-19.7862559123/nedokouboplace.2009-04-02.1519615878/copy_of_nedokoubo.2009-04-16.3620168999/)

■お問い合わせ先:

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

研究開発推進部 技術革新・基盤技術グループ

河口(こうぐち)、市川(いちかわ)、薄井(うすい)

(TEL: 044-520-5171 FAX: 044-520-5177 E-mail: venture@nedo.go.jp)

3. (公募期間: 5月上旬~6月下旬)

「イノベーション推進事業」(大学発)の公募について

<https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/MF/h21/H21-2/nedokoubo.2009-03-19.5425234643/>

【NEDO技術開発機構】

大学等の優れた技術シーズの実用化に向けて、大学等と民間企業が連携し共同で行う研究開発を支援します。

■公募期間: 平成21年5月上旬~6月下旬

■詳細は以下URLからご案内ください。

<https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/MF/h21/H21-2/nedokoubo.2009-03-19.5425234643/>

■お問い合わせ先:

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

研究開発推進部 イノベーション産学連携グループ

(マッチングファンドチーム)

尾前(おまえ)、池田、角田、小倉

TEL: 044-520-5175

E-mail: innovation-MF@nedo.go.jp

4. (公募期間: 5月上旬~7月上旬)

「イノベーション推進事業」(実用化)に係る研究開発テーマの公募開始について(予告)

<https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/jitsuyou/H21-2/nedokoubo.2009-03-19.5425234643/>

【NEDO技術開発機構】

優れた先端技術シーズを実用化に効率的に結実させることを通じて、我が国技術水準の向上、イノベーションの促進を図るため、民間企業が行う優れた技術の実用化開発に対し助成を行います。

■公募期間:平成21年5月上旬～7月上旬

■募集情報の詳細はこちらをご覧ください。

<https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/jitsuyou/H21-2/nedokoubo.2009-03-19.5425234643/>

5.(公募期間:4月中旬～5月中旬)

イノベーション推進事業のうち「産業技術人材活用事業」の公募について

[https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/fellow/nedokouboplace.2009-03-](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/fellow/nedokouboplace.2009-03-10.0364637096/nedokoubo.2009-03-10.0524285681/)

[10.0364637096/nedokoubo.2009-03-10.0524285681/](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/fellow/nedokouboplace.2009-03-10.0364637096/nedokoubo.2009-03-10.0524285681/)

【NEDO技術開発機構】

産学連携人材を活用し、大学等の優れた技術シーズを発掘、育成するとともに、産学連携活動を効果的に推進することにより優れた技術シーズを実用化に効果的に結実させることを目的とします。

■公募期間:平成21年4月中旬～平成21年5月15日

■〆切日:締切日 平成21年5月15日17時30分必着

■募集情報の詳細はこちらをご覧ください。

[https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/fellow/nedokouboplace.2009-03-](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/fellow/nedokouboplace.2009-03-10.0364637096/nedokoubo.2009-03-31.0722314952/)

[10.0364637096/nedokoubo.2009-03-31.0722314952/](https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/fellow/nedokouboplace.2009-03-10.0364637096/nedokoubo.2009-03-31.0722314952/)

■お問い合わせ先

独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構

研究開発推進部 技術コーディネートグループ(松岡, 山田)

TEL:044-520-5172

E-mail:Fellow-Team@nedo.go.jp

6.(公募期間:4/1～5/15)

平成21年度「SBIR技術革新事業」の公募について

https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/sbir/copy2_of_nedokoubo.2008-06-18.7130842836/

【NEDO技術開発機構】

SBIR技術革新事業においては、ベンチャー企業及び中小企業の技術開発力を活用し新規市場の創出につなげるために、公的機関の調達ニーズ等を踏まえ国等が設定した技術開発課題について、事前調査(F/S)及び研究開発(R&D)を実施することにより、競争力のある中小企業等の創意を活用し我が国のイノベーションに資することを目的とします。

■公募期間:平成21年4月1日(水)～5月15日(金)

■詳細は以下URLからご案内ください。

https://app3.infoc.nedo.go.jp/informations/koubo/koubo/CA/sbir/copy2_of_nedokoubo.2008-06-18.7130842836/

■お問い合わせ先:

独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO技術開発機構)

研究開発推進部 技術革新・基盤技術グループ

FAX:044-520-5177

E-mail:sbir21@nedo.go.jp

7.(公募期間:CREST 3/17～5/19、さががけ 3/17～5/12)

「戦略的創造研究推進事業」(CREST、さががけ)の公募について

<http://www.jst.go.jp/kisoken/teian.html>

【独立行政法人科学技術振興機構】

戦略的創造研究推進事業では、社会・経済の変革につながるイノベーションを誘起するシステムの一環として、戦略的重点化した分野における基礎研究を推進し、今後の科学技術の発展や新産業の創出につながる、革新的な新技術の創出を目指します。

(CREST)研究代表者を中心とする研究チームで研究を推進

(さががけ)研究総括のもとで、研究者個人が独創性を活かして研究を推進

■公募期間:

CREST:平成20年3月17日～平成20年5月19日

さががけ：平成20年3月17日～平成20年5月12日

■詳細は以下URLからご案内ください。

<http://www.jst.go.jp/kisoken/teian.html>

■お問い合わせ先：

JST戦略的創造事業本部 研究領域総合運営部／研究推進部

＜お問い合わせは電子メールでお願いします（お急ぎの場合を除く）＞

問い合わせフォーム：<http://www.jst.go.jp/kisoken/teian/top/toiawase.html>

電話番号：03-3512-3530[募集専用]

（受付時間：10:00～12:00／13:00～17:00※）

※土曜日、日曜日、祝祭日を除く

詳細情報(イベント)

8.(開催:6/11)

「国際シンポジウム：

イノベーションにおける競争と協調 一次世代の特許制度を考える」開催のご案内

<http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/?p=609>

http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp090611_info.html

【京都大学、東京大学】

本シンポジウムでは、特許制度を中心に、「イノベーションを促す次世代の仕組み作り」について、産学官、内外の有識者の間での密な対話を行う。

変化については、オープンイノベーションのように既に一定程度進展している

要素に加え、iPS細胞を用いた治療や3Dインターネットの登場等、近未来で予想される変化も視野に置く。

それを踏まえ、改革の方向性やグローバルな協力課題について、一定のコンセンサスを形成し、「京都」の地から世界に向けて発信する。同時に、今後の制度改革を支える知的インフラとして欠かせない

学術的な研究課題を特定することを目指す。

■開催日時：平成21年6月11日(木)9:30～17:30

■会場：京都大学 百周年時計台記念館百周年記念ホール
(京都市左京区 吉田キャンパス)

■参加費無料、日英同時通訳あり

事前に申し込みを必要とします。

お申し込み：http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp090611_form.html

定員に達し次第、申込みを締め切らせて頂きます。

■募集情報の詳細はこちらからご覧ください。

京都大学HP：<http://www.saci.kyoto-u.ac.jp/?p=609>

東京大学HP：http://pari.u-tokyo.ac.jp/event/smp090611_info.html

■お問い合わせ先：

東京大学政策ビジョン研究センター

(協力：知的資産経営総括寄附講座、イノベーション政策研究センター)

9.(開催:11/25～27)

「産学官ビジネスフェア2009」開催のご案内

<http://www.nikkan.co.jp/eve/sangakukan/index.html>

【日刊工業新聞社】

日刊工業新聞社は、「産学官連携」を促進するために「交流の場」として、

2004年から5年間にわたり「産学官技術交流フェア」を開催し、大学、

公的研究機関そして産業界との橋渡し役を担ってまいりました。そして、こ

の間に各機関の積極的な取り組みの結果「産学官連携」は、“交流”ステージから“ビジネス”ステージへと移行したと言えます。

これからは、連携の成果を周知し、いかに“売る”という取り組みが求められていると言えます。

その状況を踏まえ、「産学官技術交流フェア」は、その名称を「産学官ビジネスフェア」と発展的に改称し、新たな展開を見せますのでご案内いたします。

■開催日時：平成21年11月25日(水)～27日(金) 10:00～17:00

■会 場:東京ビッグサイト

■入 場 料:無料

■詳細は以下URLからご覧ください

<http://www.nikkan.co.jp/eve/sangakukan/index.html>

■問い合わせ先:

日刊工業新聞社 業務局 イベント事業部

「産学官ビジネスフェア2009」事務局

〒103-8548 東京都中央区日本橋小網町14-1

TEL:03-5644-7221 FAX:03-5641-8321

E-mail:j-event@media.nikkan.co.jp

近畿経済産業局 地域経済部 産学官連携推進課

メルマガ担当者 堀内 悠

E-mail:horouchi-haruka@meti.go.jp

〒540-8535 大阪府中央区大手前1-5-44 大阪合同庁舎1号館

Tel:06-6966-6164(直通) / Fax:06-6966-6079

【4】編集後記

ゴールデンウィーク直前になってどうやら天候も安定するように

見えます。阪大構内もサツキが咲きはじめ、「銀杏祭」です。

どこまで走っても1000円という高速道路料金で列島渋滞だらけとなる恐れ
はありますが、景気浮揚には連休の好天もおおいに期待したいところです。

今日は、クライスラーが連邦破産法11条(日本の民事再生法に相当)の
適用を申請し、法的整理を活用した経営再建を目指すこととなったとの
ニュースがはいっています。米国経済も小林先生のお見立てのように、
底が見え始めたということでしょうか。

6月1日には青い銀杏の会の大会で、事務局も手薄ながら準備にねじり

鉢巻きです。どうぞ、会員の皆様には、中之島センターまで

お運びいただきますようお願い申し上げます。(稲)

□ 発行責任者:青い銀杏の会 <http://www.osaka-u.com/>

■ 編集:青い銀杏の会 事務局

□ メールマガジン連絡先:mailmz@osaka-u.com

■ このメールマガジンの、お知り合いへの紹介や転送は自由です。

□ Copyright (c) 2007 青い銀杏の会. All rights reserved.